

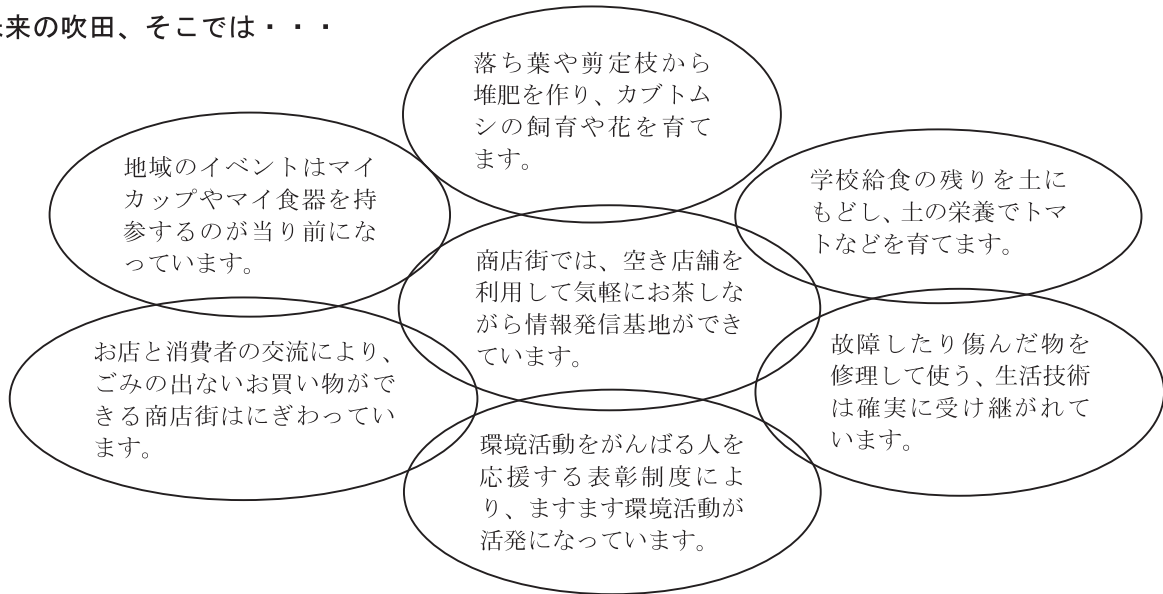


## 資源 めぐりのまちすいた

一つ一つの「もの」にまごころをこめ、「もの」を大切にする「わざ」があふれる。  
 最後まで「もの」の命を尊んで使い切る。  
 「もの」を大事にするところから、「ひと」や「いのち」を大事にするところが芽生える。  
 風情あるまちが生まれる。  
 「もの」がめぐり、「ところ」がめぐる。「もの」の環が生まれ、「ひと」の環が生まれる。  
 かつて、「もったいない、ありがたい」との言葉があふれていた吹田に、  
 またもう一度、落ち着いた風情やにぎわいを生み出そう。  
 これが、私たちがめざす「めぐりのまちすいた」です。

### 資源部会はこんな未来をめざしています。

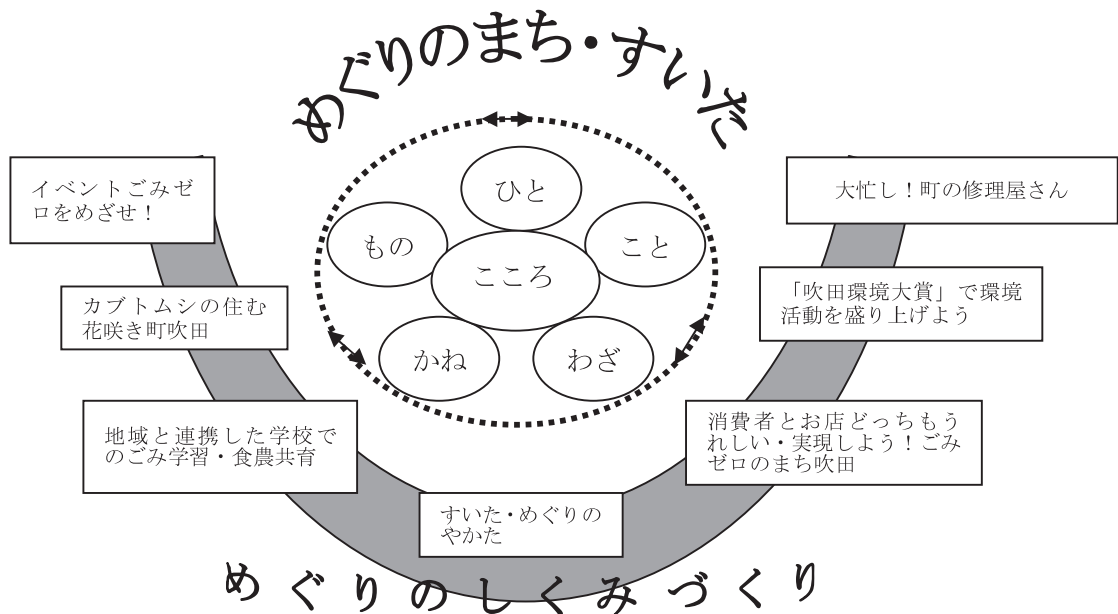
未来の吹田、そこでは・・・



資源

### 「めぐりのしくみ」を作りましょう。

どのような未来像もそれを担う人々や、しくみがなければ絵に描いた餅になります。資源部会では、まず7つのプロジェクトにとりくむことで、そのようなしくみを作り上げていきたいと考えています。「めぐりのしくみ」に支えられて、「めぐりのまちすいた」が動き始めます。



# 消費者とお店どっちもうれしい 実現しよう！ごみゼロのまち吹田

## ○ 目的・効果

【主たる目的】消費者と商店街が一体となったごみの発生抑制の仕組みづくり、ごみの減量

【波及的効果】消費者とお店の交流、ごみ減量意識の向上、地域活性化

## ○ 誰（と誰）が〈主体〉

「推進組織」、商店街、行政

## ○ 誰（と誰）に〈対象〉

市民

## ○ 何をするか〈内容・手法〉

### 1. 調査・研究

「推進組織」に「エコライフ研究会」を設置し、他市の事例調査や商店街・消費者へのヒアリングを実施し、商店街活性化につながる環境保全・ごみ発生抑制（注）の取組みについて研究する。

### 2. 商店街に対する提案・支援

（1）行政と連携し、商店街に対して、調査・研究の成果を示し、協働プロジェクトを提案する。

（2）賛同を得た商店街の実践行動を支援する。

環境に配慮した行動の企画・提案、地域通貨導入、流通の仕組みづくり支援など。

### 3. 消費者に対する普及啓発・情報提供

消費者に対して、環境に配慮した買い物についての普及啓発・情報提供を実施する。

### 4. 他の商店街への普及

商店街での実践行動の成果をまとめ、他の商店街などに情報発信し、取組みの輪を広げる。

### 5. 地域通貨の導入・流通促進、使用できるサービス分野の拡大

（1）市内商店街に対する普及活動を通じ、共通の地域通貨が使用できる商店街を増やしていく。

（2）将来的には、地域通貨が使えるサービスの対象を環境だけにとどまらず、福祉、コミュニティ、教育など他の分野まで拡大し、持続可能な社会づくりにつなげていく。

（注）ごみの元を断たないで、リサイクルを進めても、根本的な解決にはつながりません。リサイクルするにも多量のエネルギーが必要でし、リサイクルしてもいつかはごみになります。従って、「ごみの発生抑制」を重視しています。

## ○ 活動の期間

1年目：調査・研究

2年目：商店街に対する提案

3年目～：実践

## ○ 予算〈概略：収入と支出〉

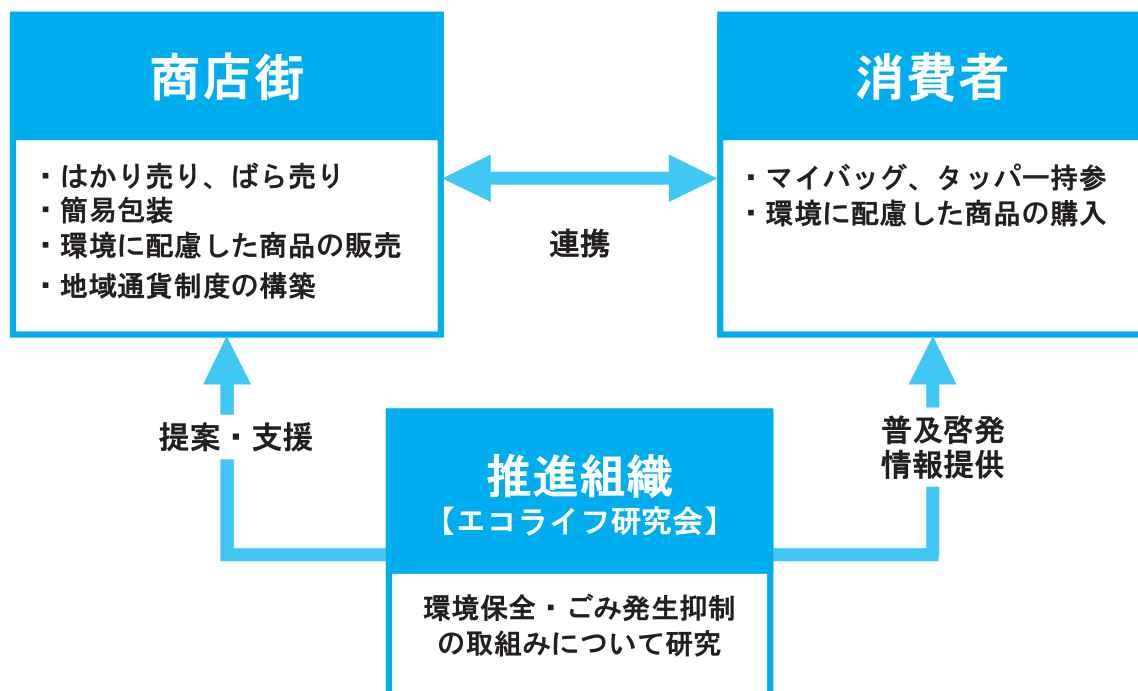
収入：冊子販売（調査・研究結果）

支出：調査研究費、冊子印刷代

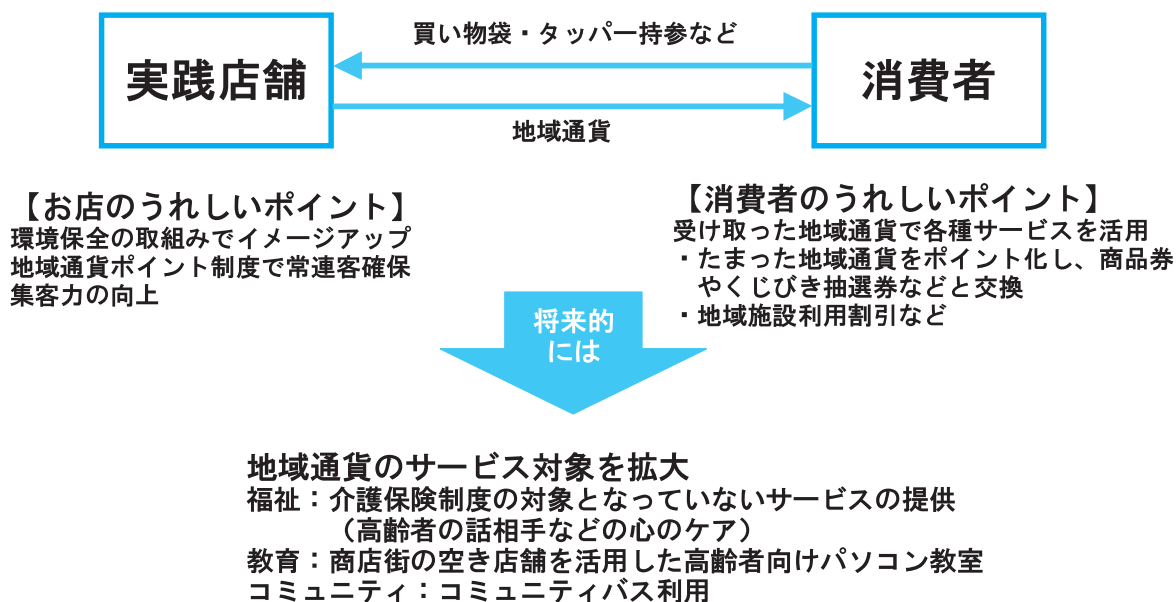
## ○ 評価の基準

- ・実践店舗数
- ・実践商店街数
- ・マイバッグ持参率
- ・地域通貨発行額
- ・商店街、スーパーから出るごみの量

## ■ プロジェクト概要図



## ■ 地域通貨制度イメージ



# 大忙し！町の修理屋さん

## ○ 目的・効果

【主たる目的】物を修理して長く使うことができる仕組みづくり、ごみ減量

【波及的効果】物を大切にする意識の向上

## ○ 誰（と誰）が〈主体〉

「推進組織」、町の修理屋さん

## ○ 誰（と誰）に〈対象〉

市民

## ○ 何をするか〈内容・手法〉

### 1. 修理屋さん情報の集約・提供

「推進組織」に「修理屋さんマップづくりの会」を設置し、市内の修理屋さん情報を収集、マップ化し、広く市民に提供する。⇒町の修理屋さんマップ、町の修理屋さんを紹介するWebサイト制作など

### 2. 修理屋さん間のネットワーク化・活動の支援

市民の修理屋さん利用促進を図るため、マップに記載されている修理屋さんを中心に構成される「町の修理屋さんネットワーク（仮称）」の設立・活動を支援する。

### 3. 町の修理屋さんネットワークの活動

#### (1) 修理屋さん間の情報交流

#### (2) 修理システムの研究

修理屋さん、消費者、製造メーカーすべてにとってメリットになる修理システムの研究

#### (3) 推進組織との連携事業の実施

##### ① 商店街の空き店舗を修理工房として活用

##### ② 市民の修理屋さん利用促進

市民が気軽に利用できる移動修理工房車導入のための方法を考え、導入する。

##### ③モノを大切にする意識の普及啓発

簡単な修理技術が学べる市民向け「修理屋さん養成講座」の開催。修了生は、修理工房で活躍していただく。

### 4. 参考（修理屋さん分野）

インテリア・家具、陶器・置物、時計、生活雑貨、アクセサリ、バッグ・靴、パソコン・家電製品、住まい、楽器、カメラ、自転車、家屋など

## ○ 活動の期間

1～2年目：マップづくり

3年目：ネットワーク化

## ○ 予算〈概略：収入と支出〉

収入：マップ販売

支出：マップ作成費

## ○ 評価の基準

- ・マップに記載されている修理屋さん数
- ・修理屋さんの売上
- ・修理件数
- ・町の修理屋さんネットワーク会員数
- ・市民向け修理屋さん養成講座受講者数

# 「吹田環境大賞」で環境活動を盛り上げよう

## ○ 目的・効果

- 【主たる目的】行動につなげるための動機づけとその仕組みづくり、吹田の環境活動のパワーアップ  
 【波及的効果】環境問題に対する取組みの普及促進

## ○ 誰（と誰）が〈主体〉

「推進組織」

## ○ 誰（と誰）に〈対象〉

市民、事業者、行政など

## ○ 何をするか〈内容・手法〉

1. 表彰制度の趣旨  
積極的に環境活動に取り組んでいる人、団体などを掘り起こし、表彰を通じて広く市民に紹介する。
2. 表彰制度の構築  
「推進組織」に「吹田環境大賞実行委員会」を設置し、表彰制度構築に向けて検討を行う。
3. 表彰制度イメージ
  - (1) 表彰対象  
他の模範となる環境問題に対する取組みを進めている人・団体など
  - (2) 募集  
自薦、他薦
  - (3) 選考委員会の構成  
推進組織に属する市民・事業者・行政や学識経験者など
  - (4) 選考基準
    - ① 他の模範となるもの
    - ② 一工夫すれば誰でも取組めそうな普遍性があるもの
    - ③ みんなが元気になるようなもの
    - ④ アジェンダ21すいた推進に活力を生み出すもの
  - (5) 選考方法
    - ① 書類選考（予備選考）
    - ② 公開審査 ※事例発表会と合わせ、聴衆も選考に参加できると盛り上がる。

## ○ 活動の期間

- 1年目：表彰制度の検討  
2年目～：実施

## ○ 予算〈概略：収入と支出〉

支出：表彰状の用紙代（市内から出る剪定枝や竹を材料とした紙） 審査員報酬

## ○ 評価の基準

- ・応募数 ・表彰会場来場者数

# カブトムシの住む花咲き町吹田

## ○ 目的・効果

【主たる目的】 剪定枝のリサイクルの仕組みづくり、普及、実践

【波及的効果】 環境学習、学校と地域のつながり強化

## ○ 誰（と誰）が〈主体〉

「推進組織」、市民、市民団体、行政

## ○ 誰（と誰）に〈対象〉

市民、学校、事業者

## ○ 何をするか〈内容・手法〉

### 1. 「みどりのリサイクル実践マニュアル」づくり

「推進組織」の中で、剪定枝のリサイクルに興味のあるメンバーが中心となって、学校や家庭で手軽にできる剪定枝のリサイクル方法を検討し、「みどりのリサイクル実践マニュアル」としてまとめる。

### 2. モデル事業の提案、「みどりのリサイクル懇話会」の立ち上げ、モデル事業の実施

(1) 小・中学校に対して、「みどりのリサイクル実践マニュアル」を示し、モデル事業を提案する。

(2) 推進組織、提案に賛同を示した学校、地域住民、保護者、事業者、行政などで構成される懇話会を立ち上げ、小・中学校と地域が連携したリサイクルシステム（剪定枝リサイクル化のノウハウ、懇話会メンバーの役割分担、チップ化したものの用途など）を検討し、モデル事業を実施する。

### 3. モデル事業の成果検証・評価

モデル事業実施による成果（剪定枝のリサイクル実績・減量効果など）をまとめ、広く情報発信する。

### 4. 剪定枝リサイクル事業の拡大

#### (1) 地域への取組み拡大

① モデル学校を拠点として、地域の住宅、公園、街路樹、事業者に対して取組みの輪を広げる。

② こどもに人気の高いカブトムシを吹田に呼び戻すことをキャッチフレーズに広報活動を行う。

#### (2) 他の学校・地域への取組み拡大

他の学校・地域に対して、モデル事業の成果を示し、取組みの輪を広げる。

#### (3) 事業化促進

上記取組みの成果を示し、家庭用小型剪定枝粉碎機の貸し出しなどの事業を促進する。

### 5. 剪定枝の出ない仕組みづくり

過度に大量の剪定枝が出ない仕組みづくりについて、調査・研究を進める。

## ○ 活動の期間

1年目：実践マニュアルづくり

2年目：モデル事業提案

3年目～：継続実施

## ○ 予算〈概略：収入と支出〉

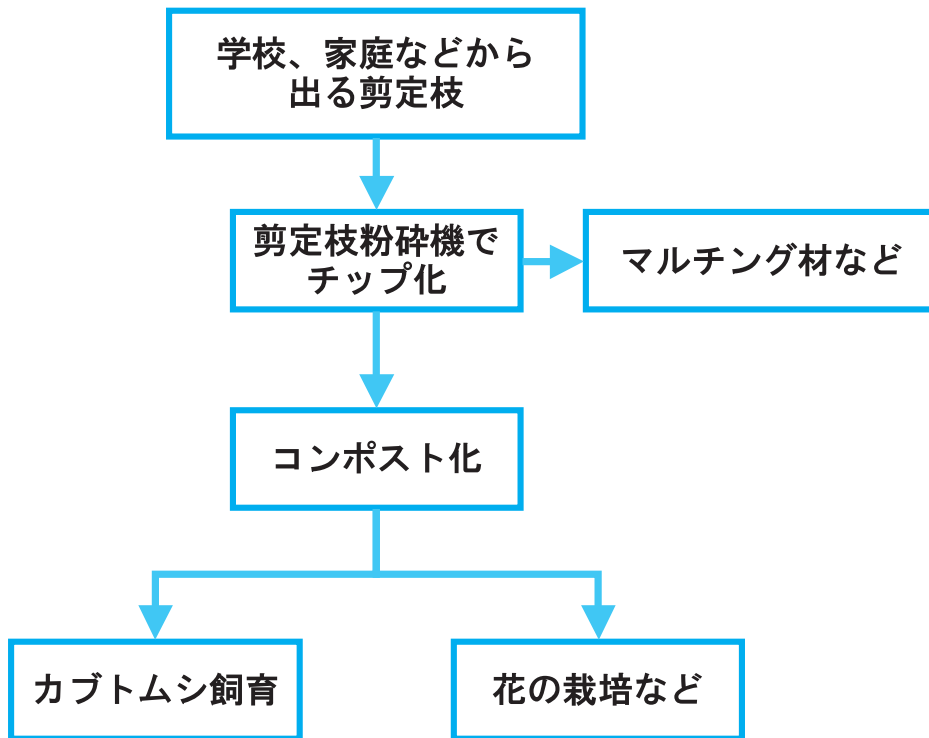
収入：冊子販売（マニュアル・報告書）

支出：家庭用小型剪定枝粉碎機、堆肥化費用

## ○ 評価の基準

・剪定枝リサイクル実績、減量効果 ・剪定枝リサイクル実施校数 ・剪定枝リサイクル実施世帯数

## ■ 剪定枝リサイクルの流れ



## ■ 愛知県日進市で家庭に貸し出されている家庭用小型剪定枝粉碎機



日進市の住民と日進市に土地をもっている人は無料で家庭用小型剪定枝粉碎機を借りられます。

家庭用電源100Vで、消費電力は1,500W、粉碎できる樹木の直径は最大20mmです。剪定した枝をチップ化して、マルチング材（樹木の周りに置いて雑草の発生を防ぐ）やコンポスト堆肥に有効利用できます。

[http://www.city.nisshin.aichi.jp/~kankyo/page/gomikakari\\_page\\_senteishoriki/gomikakari\\_page\\_senteiedashoriki.htm](http://www.city.nisshin.aichi.jp/~kankyo/page/gomikakari_page_senteishoriki/gomikakari_page_senteiedashoriki.htm)

# イベントごみゼロをめざせ！

## ○ 目的・効果

【主たる目的】リユース食器・マイ食器使用イベントの普及とその仕組みづくり、イベントから出るごみの減量

【波及的効果】イベントの主催者や来場者に対するごみ減量の3R（リデュース、リユース、リサイクル）の体験学習

## ○ 誰（と誰）が〈主体〉

「推進組織」、ごみ減量に関心のある市民、（財）千里リサイクルプラザ研究所（吹田のイベントのごみを減らそうプロジェクト）

## ○ 誰（と誰）に〈対象〉

イベント主催者（市民、事業者、行政）、イベント参加者

## ○ 何をするか〈内容・手法〉

### 1. 「イベントごみゼロマニュアル」づくり

「推進組織」と（財）千里リサイクルプラザ研究所（吹田のイベントのごみを減らそうプロジェクト）が連携し、リユース食器やマイ食器の活用方法を示した「イベントごみゼロマニュアル」を作成する。移動食器洗浄車の利用も検討する。

### 2. リユース食器・マイ食器使用のイベントごみゼロモデル事業の実施

- (1) 市内のイベント主催者に対して、モデル事業を提案する。（飲食物が提供される地域のお祭、文化祭、大学の学園祭など）
- (2) 賛同を得たイベント主催者、スタッフを対象に具体的な取組み方法のアドバイスなどの支援を行う。
- (3) モデル事業実施状況をビデオに収録し、問題点、改善点などを検討する。

### 3. 市域への展開

- (1) 市内のイベント主催者に対して成果を示し、普及啓発を図る。（出前講座の開催など）
- (2) ごみ減量に興味のある市民に対して、「イベントごみゼロサポーター養成講座」を開催し、担い手の育成を図る。
- (3) イベントごみゼロに取り組んだイベント主催者に呼びかけ、ネットワーク化を図り、ごみゼロイベントの継続的な実施、ステップアップ、他地域、他団体への広がりを図る。（イベントごみゼロサポーターの相互派遣、フォーラムの開催など）

## ○ 活動の期間

- 1年目：マニュアルづくり
- 2年目：モデル事業提案・実施
- 3年目～：継続実施

## ○ 予算〈概略：収入と支出〉

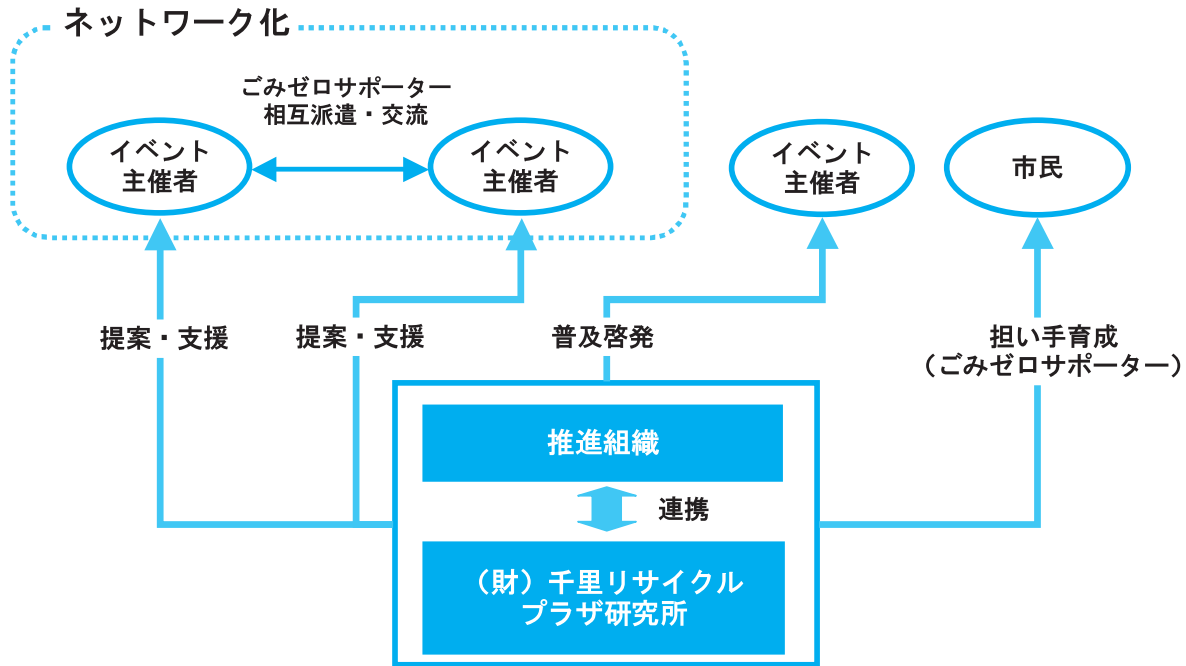
収入：冊子販売（マニュアル）  
ごみゼロサポーター派遣料  
支出：マニュアル制作費、講師謝礼金、  
移動食器洗浄車利用料

## ○ 評価の基準

・イベント数 ・イベント参加者数 ・ネットワーク会員数 ・ごみゼロサポーター養成者数



## ■ プロジェクト概要図



## ■ 【参考】(財) 千里リサイクルプラザ研究所 「イベントごみゼロ研究会」が取組んでいる取組み方法

1. 会場にはごみ箱を置かず、その代わりにリユース・リサイクルステーションを設ける。
2. ステーションには長机を並べ、その上に分別のための回収箱を置き、回収物の表示をする。
3. 飲んだり、食べたりした人がリサイクルできる回収品は自分で洗い、分別する。
4. ステーションにはスタッフが立ち、声かけを行い、分別の仕方、回収後の行方等を説明する。
5. 回収箱が一杯になったら、スタッフが別の袋に移す。
6. リサイクルできる回収品はリサイクルルートにのせる。(リサイクル)
7. リユース食器を予め貸し出し、または会場で貸し出し、使用後返却してもらう。(リユース)
8. 予めマイ食器持参を予め呼びかける。(リデュース)



リユース・リサイクルステーション



リユース食器



移動食器洗浄車

# 地域と連携した学校でのごみ学習・食農共育

## ○ 目的・効果

【主たる目的】地域や学校での生ごみ堆肥化の仕組みづくり、ごみ減量

【波及的効果】食農共育（注1）、環境学習

## ○ 誰（と誰）が〈主体〉

「推進組織」、行政、学校

## ○ 誰（と誰）に〈対象〉

学校（児童・教師・PTA）、地域住民

## ○ 何をするか〈内容・手法〉

### 1. 「生ごみ堆肥化アドバイザー」の養成

「推進組織」内に「生ごみ堆肥化研究会」を設置し、行政と連携し地域の生ごみ堆肥化実践者や指導者（生ごみ堆肥化アドバイザー）の育成を図る。

### 2. 学校における生ごみ堆肥化モデル事業

(1) 学校や教育委員会に対して、行政と協働で学校における生ごみ堆肥化モデル事業（給食調理くず、残飯などの堆肥化）を提案する。

(2) 提案に賛同を示した学校の教師、PTA、地域住民などで構成される「生ごみ堆肥化地域懇話会」を設置する。

(3) 懇話会メンバーが「生ごみ堆肥化アドバイザー」や行政の支援を受け、地域や家庭で生ごみ堆肥化を実践する。

(4) 懇話会メンバーと「生ごみ堆肥化アドバイザー」が連携し、学校の生ごみ堆肥化をともに実行する。

①食べ物の大切さを伝える、食べ残しをしない、などの食育を行う。

②クラスごと、もしくは学年ごとに適した方法（ダンボールを活用した堆肥化など）（注2）で生ごみ堆肥化を実践する。

③減量効果を把握するため、投入生ごみの量、堆肥化量を計測する。

④できた堆肥を校庭の花壇や畑で利用する。

⑤野菜作りを体験させ、堆肥でできた野菜を使用して各校オリジナル給食を作る。

### 3. 取組み地域の拡大

生ごみ堆肥化実践の成果を報告書としてまとめ、広く情報発信し、紙パック回収などとの連携を図り、実践的で幅の広い環境学習を展開する。多くの学校や地域で生ごみ堆肥化実践が広まるように進める。

## ○ 活動の期間

1年目：実践者、アドバイザーの育成

2年目：モデル事業の提案

3年目～：実施

## ○ 予算〈概略：収入と支出〉

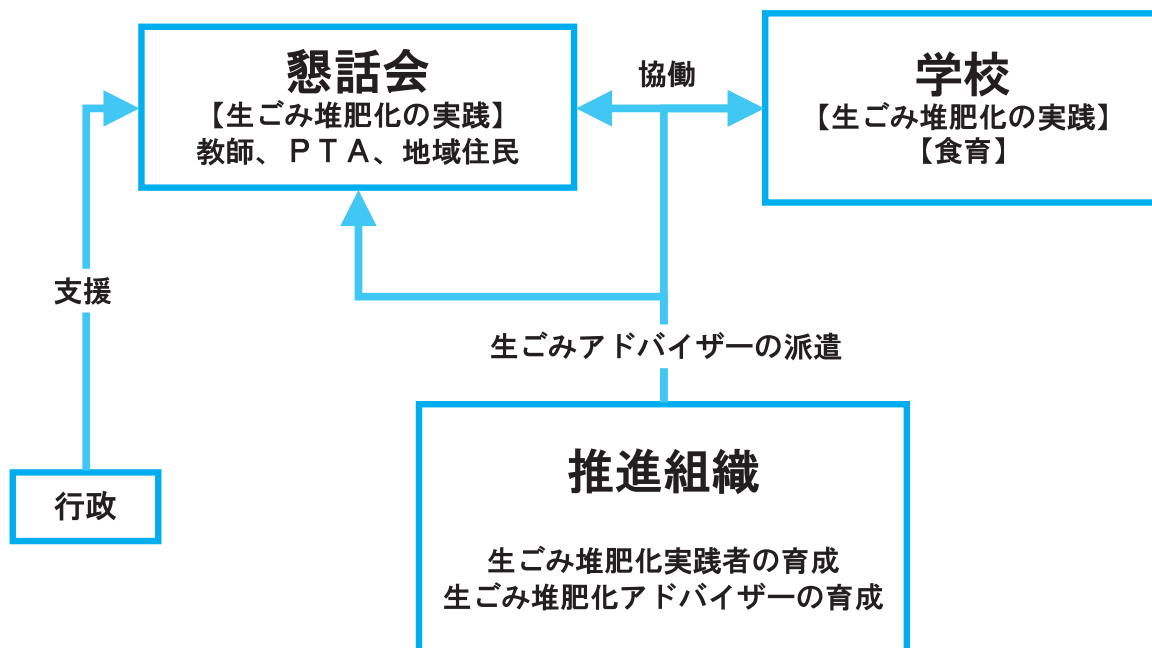
収入：冊子販売（報告書）

支出：堆肥化費用

## ○ 評価の基準

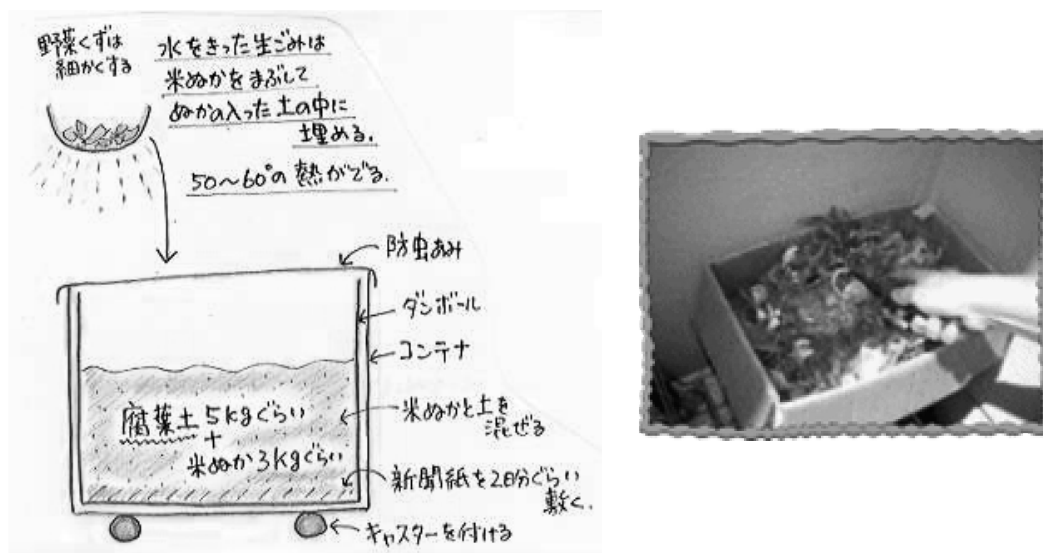
・堆肥化量、減量実績 ・実施校数 ・生ごみ堆肥化アドバイザー数 ・堆肥でできた野菜の収穫量

## ■ プロジェクト概要図（プロジェクト実施の組織図）



注1：ここではともに学び育まれるという意味をこめて、「教育」ではなく、「共育」という言葉を使用しています。

## ■ ダンボール箱を使った生ごみ堆肥化方法



注2：ダンボールでの生ごみ堆肥化方法は、ダンボール箱を2重に重ね、腐葉土、鶏糞、ぬかなどを入れて床とし、そこに生ごみを入れて、攪拌し、発酵させる方法を言い、ベランダでもできる簡便な方法です。

出典：<http://a-sunokai.hp.infoseek.co.jp/puno47.htm>  
<http://www.geocities.co.jp/NatureLand/3515/TRY4.html>

# すいた・めぐりのやかた

## ○ 目的・効果

【主たる目的】商店街の空き店舗を利用した環境情報の提供とその仕組みづくり

【波及的効果】商店街の活性化

## ○ 誰（と誰）が〈主体〉

「推進組織」、商店街など

## ○ 誰（と誰）に〈対象〉

市民

## ○ 何をするか〈内容・手法〉

### 1. 調査・研究

市内空き店舗の状況の調査、他市の空き店舗活用事例を調査・研究する。

### 2. 商店街への提案、開設

(1) 調査・研究の成果を示し、環境保全に取り組んでいる商店街を中心に、「めぐりのやかた」づくりを提案する。

(2) 賛同を得た商店街とともに場所、活動内容、運営方法、資金、人材などについて調査・検討し、開設する。

### 3. 「めぐりのやかた」の概要

#### (1) 趣旨

① 誰もが気軽に立ち寄れ、お茶でも飲みながら楽しく環境について学ぶことができる場所づくり。

② 商店街と一体となって推進し、活性化にも寄与する仕組みづくり。

#### (2) 活動内容

##### ① 情報提供

市内エコショップ、まちの修理屋さん、リサイクルショップ、各種講座情報など

##### ② 展示・販売・交換

リサイクル品、エコグッズ、地産地消品など

##### ③ 環境活動の拠点

各種講座の開催、「推進組織」事務所

### 4. 展開

環境保全に取り組む商店街を増やし、各地区の開設を目指す。

## ○ 活動の期間

1年目：調査・研究

2～3年目：商店街への提案・検討

4年目～：開設、展開

## ○ 予算〈概略：収入と支出〉

支出：調査研究費、賃料、光熱費、掲示情報作成費、パソコン代、各種備品代

収入：各種講座参加費、エコグッズ売り上げなど

## ○ 評価の基準

・利用者数 ・「めぐりのやかた」設置数



